報告事項－３
（図書館）

「没後 30 年　遠藤周作展―20 代をどう生きるか」の開催について

『海と毒薬』『沈黙』『深い河』などの作品で知られる作家・遠藤周作（1923―1996）は 2026 年に没後 30 年を迎えました。この節目の年に合わせ、遠藤と縁の深い町田市、三田文学会、慶應義塾図書館の三者共催による展覧会を開催します。

遠藤は 1943 年（20 才）から 1948 年（25 才）までの戦中・戦後という激動の時代を慶應義塾大学の学生として過ごしました。この間に後の人生に大きな影響を及ぼす師――堀辰雄、佐藤朔、吉満義彦――と出会い、卒業後は「三田文學」の同人として、原民喜ら先輩作家の知遇を得て文学修行を始めます。その後 1950 年（27 才）から 1953 年（29 才）までフランスに留学。この時の体験を通じて小説家になることを決意しました。この留学時代に学んだフランス語の原書の多くは、遠藤が 40 歳から 20 余年にわたり居住した町田市の町田市民文学館に所蔵されています。

本展では、大学時代に執筆された自作文集をはじめ、原稿や書簡、書籍など、若き日の遠藤の生き方を示す資料を展観します。遠藤が遺した資料や言葉が、これからの人生や将来を模索している若い世代の人々にとって、一つの指針となれば幸いです。

本展は、市民文学館が改修工事に伴う長期休館中のため、会場を慶應義塾図書館（三田メディアセンター）とし、関連イベントも慶應義塾大学と町田市立中央図書館の 2 か所で開催します。遠藤周作の足跡を通じて、市外の方々に町田市の文化や活動を広く知っていただく好機になることを期待しております。

１　開催概要

開催場所：慶應義塾図書館（三田メディアセンター）1 階展示室
（港区三田 2-15-45 慶應義塾大学三田キャンパス内）
開催期間：2026 年 11 月 24 日（火）～2027 年 1 月 30 日（土）
休 室 日：日曜、祝日、年末年始（12 月 25 日～1 月 11 日）
開室時間：平日 9：00～18：20　／土曜日 9：00～16：50
観 覧 料：無料
主　　催：町田市民文学館ことばらんど、三田文学会、
慶應義塾図書館
協　　力：長崎市遠藤周作文学館、世田谷文学館
監　　修：加藤宗哉（作家、元「三田文學」編集長）

２　広報

広報まちだ、町田市公式ホームページ、SNS（X、インスタグラム）、ポスター・チラシ、慶應義塾ホームページ、三田文学会ホームページ　他

３　関連イベント

■慶應義塾大学三田キャンパス会場

① 対談（加藤宗哉×関根謙）「三田文學と遠藤周作」12 月 5 日（土）
② 座談会（遠藤龍之介×「三田文學」学生）「私たちの遠藤文学―世代を超えた受けとめ方」12 月 12 日（土）
③ ギャラリートーク　12 月 19 日（土）、2027 年 1 月 30 日（土）

■町田会場（町田市立中央図書館）

① 中江有里スペシャルトーク「遠藤周作『砂の城』をめぐって―若き日の読書体験」12 月 20 日（日）
② 宮崎智之講演会「“弱くある贅沢”を考える―遠藤文学の読み方」2027 年 1 月 16 日（土）
③ 加藤宗哉講演会「遠藤周作若き日の肖像―『メリノの歌』『アラベスケ』を中心に」2027 年 1 月 17 日（日）



没後30年

遠藤周作展
—20代をどう生きるか

2026.11/24（火）— 2027.1/30（土）

観覧無料

慶應義塾図書館（三田メディアセンター）1階展示室
（東京都港区三田2-15-45 慶應義塾大学三田キャンパス内）

開室時間：平日 9:00〜18:20／土曜日 9:00〜16:50
休 室 日：日曜、祝日、年末年始（12月25日〜1月11日）
主　　催：町田市民文学館ことばらんど、三田文学会、慶應義塾図書館
協　　力：長崎市遠藤周作文学館、世田谷文学館
監　　修：加藤宗哉
企画・問い合わせ：町田市民文学館ことばらんど
TEL：042-739-3420（平日9:00-17:00）
FAX：042-739-3421

老年は冬のように醜く、辛いものものでしょうが、しかしその老年まで春があり、夏があったのです

人と人との心暖かな交流は、たった一つの〝ほほえみ〟が大切であり、言葉以上の効用をもたらすことがある　文化というのは、「無駄なもの」「無意味なもの」に価値をみつけること

嫉妬とは一体、何だろう　人間の自尊心が最大に傷つけられた苦しみが嫉妬だ　恋愛は「くるたのしい」ものである

没後30年

遠藤周作展 —20代をどう生きるか



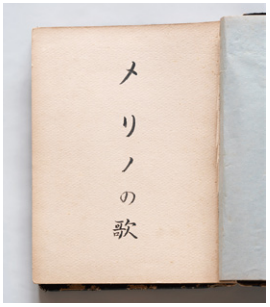
写真提供：文藝春秋

『海と毒薬』『沈黙』『深い河』などの作品で知られる作家・遠藤周作（1923-1996）は2026年に没後30年を迎えました。この節目の年に合わせ、遠藤と縁の深い町田市、三田文学会、慶應義塾図書館の三者による展覧会を開催します。

遠藤は1943年（20才）から1948年（25才）までの戦中・戦後という激動の時代を慶應義塾大学の学生として過ごしました。この間に後の人生に大きな影響を及ぼす師——堀辰雄、佐藤朔、吉満義彦——と出会い、卒業後は「三田文學」の同人として原民喜ら先輩作家の知遇を得て文学修行を始めます。その後1950年（27才）から1953年（29才）までフランスに留学。この時の体験を通じて小説家になることを決意しました。この留学時代に学んだフランス語の原書の多くは、遠藤が40代から60代にかけて居住した東京都町田市の町田市民文学館に所蔵されています。

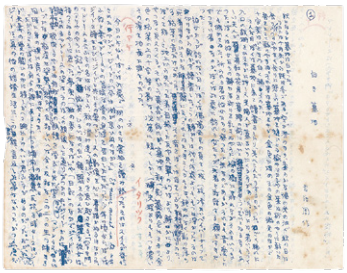
遠藤にとっての20代は、よく学び、よく遊び、そして大いに悩んだかけがえのない時であり、その後の人生を決定する重要な期間でした。

本展では、大学時代に執筆された二つの自作文集「メリノの歌」（個人蔵）と「アラベスケ」（世田谷文学館蔵）をはじめ、原稿や書簡、書籍など、若き日の遠藤の生き方を示す資料を展観します。遠藤が残した資料や言葉が、これからの人生や将来を模索している人にとって一つの指針となれば幸いです。



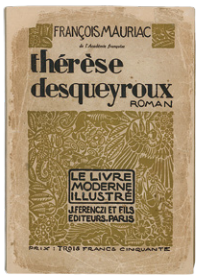
「メリノの歌」
1944～45年／個人蔵

慶應義塾大学予科生時代に執筆した未発表の自作文集。掌編小説やエッセイなど全4章を収める。



原稿「白き墓地」
1951年／長崎市遠藤周作文学館蔵

『フランスの大学生』第3章「四季」のなかの一篇。留学先のフランスで執筆。



フランソワ・モーリヤック『テレーズ・デスケルー』
Livre modern illustre
1935／町田市民文学館蔵

堀辰雄を通じてモーリヤックを知り、25才の時に入手した。最も愛した作品。

関連イベント

詳細は町田市民文学館ホームページをご覧ください。参加費はいずれも無料

慶應義塾大学三田キャンパス会場

すべて申込不要（当日先着順）

会場へのアクセス

（港区三田2-15-45）

● 対談「三田文學と遠藤周作」

12月5日（土）16:00～17:30
登壇：加藤宗哉（元「三田文學」編集長）×関根謙（前編集長）
会場：西校舎ホール
定員：100名

● 座談会「私たちの遠藤文学 —世代を超えた受けとめ方」

12月12日（土）11:00～12:30
登壇：遠藤龍之介（遠藤周作ご子息）×「三田文學」学生
司会：加藤宗哉
会場：北館ホール
定員：100名

● ギャラリートーク

12月19日（土）、2027年1月30日（土）
※いずれも①11:00～　②14:00～（各回30分程度）
解説：町田市民文学館展示担当学芸員
会場：三田メディアセンター1階展示室
定員：各回15名

町田会場（町田市立中央図書館6階ホール）

すべて定員100名（申込順）

会場へのアクセス

（町田市原町田3-2-9）

● スペシャルトーク「遠藤周作『砂の城』をめぐって—若き日の読書体験」

12月20日（日）14:00～15:30
登壇　：中江有里（俳優・作家・歌手）
聞き手：加藤宗哉

申込方法

【1次受付】
11月15日（日）正午～11月18日（水）19：00
イベシス（コード：261119A）で受付。

【2次受付】
11月19日（木）正午～
イベントダイヤル（042-724-5656）
またはイベシスで受付。

● 講演会「“弱くある贅沢”を考える —遠藤文学の読み方」

2027年1月16日（土）14:00～15:30
講師：宮崎智之（文芸評論家）

申込方法

12月2日（水）正午～
イベントダイヤル（042-724-5656）
またはイベシス（コード：261202A）で受付。

● 講演会「遠藤周作若き日の肖像 —「メリノの歌」「アラベスケ」を中心に」

2027年1月17日（日）14:00～15:30
講師：加藤宗哉

申込方法

12月2日（水）正午～
イベントダイヤル（042-724-5656）
またはイベシス（コード：261202B）で受付。

［問い合わせ］
町田市民文学館ことばらんど（平日9:00～17:00）
TEL042-739-3420／FAX042-739-3421
@machida_kotoba で最新情報発信中

文学×ことば いいことふくらむまちだ

若い時は人生の謎と意味とが解けないから、我々は生きるのだし、生きるに価するのである

時には不真面目人間たれ　明日できることを、今日するな